


(様式2) 実行計画管理シート

事業名		28	京阪電鉄樟葉駅前ロータリー渋滞解消整備計画策定・推進事業	部・課	土木部 道路河川整備課
総合計画との関係	基本目標等		安全で、利便性の高いまち		
	施策目標等		5 快適で暮らしやすい環境を備えたまち		
	取り組みの方向		5-① 市民生活の利便性向上や環境負荷の低減などを図るため、効率的で利便性が高く、持続可能な公共交通環境の整備を図るとともに、公共交通機関の利用を促進します。		
	(関連施策目標等)		4 安全で快適な交通環境が整うまち		
	(関連施策目標等)				
	4つの重点的に進める施策との関係		4. 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる		
と総合戦略の関係	基本目標		1 産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める		
	施策目標		3 安全で快適な交通環境が整うまち		
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞		
	所信表明				
	2016(H28)年度市政運営方針				
	2017(H29)年度市政運営方針		○	樟葉駅周辺の交通環境の改善に向け、駅前ロータリーの整備に関わる基本設計に着手し、平成30年度までに改善策をまとめる。	
	2018(H30)年度市政運営方針		○	樟葉駅周辺の交通環境の改善に向け、引き続き駅前ロータリーの整備の基本設計を進め、改善策をまとめる。	
事業概要 (目的・内容等)			朝夕の通勤、通学の時間帯の樟葉駅前ロータリー内では、交通渋滞が発生しており、路線バスの運行に支障が出ている状況。本事業では、現地調査結果をもとにソフト面、ハード面の双方から対策を検証し、より効率的、効果的な整備を行なう。		

取り組み状況

これまでの取り組み状況		平成29年度新規事業	
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標		
	実績（評価）		
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	基本設計	
	実績（評価）	現地調査により混雑具合、危険な状態を把握した中で、樟葉駅前ロータリーの安全対策をソフト面、ハード面の双方から対策を検証中。H30年度においても引続き対策を検証する。	
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	基本設計	
	実績（評価）	樟葉駅前ロータリーの安全対策を検討し、基本設計案をとりまとめた。	

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	実施設計(別事業)
	実績(評価)	過年度に実施した基本設計案を基に実施設計を取りまとめた。
備考		

課題・今後の対応	年々、国費(社会資本整備総合交付金)の内示率低下により財源の確保が厳しい状況であるが、令和2年度より実施する改良工事についても、引き続き、補助金申請を行いながら着実に事業を進める。		
達成状況(実行計画)	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況(市長公約)	○:達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
駅前ロータリー内の駐車車両				-	-	-	27	27	27	14	台	
指標の説明				基本設計(H29・30年度) 実施設計(R1年度) 改良工事(R2からR3年度実施予定)							当初目標値	達成年度
駅前ロータリー内に駐車している一般車両の台数												
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	0	0	0	0	0	0	0
2017(H29)年度	3,135	0	0	0	0	0	3,135
2018(H30)年度	7,616	0	0	0	0	0	7,616
2019(R1)年度	15,209	7,800	0	5,700	0	0	1,709

整備事業の場合の総事業費 0 千円 (建設経費 0 千円 , 用地費 0 千円)

（様式2） 実行計画管理シート

事業名		35	公共交通環境整備事業		部・課	土木部	土木政策課 交通対策課
総合計画との関係	基本目標等		安全で、利便性の高いまち				
	施策目標等		5 快適で暮らしやすい環境を備えたまち				
	取り組みの方向		5-① 市民生活の利便性向上や環境負荷の低減などを図るため、効率的で利便性が高く、持続可能な公共交通環境の整備を図るとともに、公共交通機関の利用を促進します。				
	（関連施策目標等）						
	（関連施策目標等）						
	4つの重点的に進める施策との関係		4 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる				
と総合戦略の関係	基本目標		1 産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める				
	施策目標		4 快適で暮らしやすい環境を備えたまち				
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞				
	所信表明		○	・ 枚方市駅の乗降客は、1日9万人を数え、枚方市駅から発着するバスは49路線、1日約1,000本で乗降客は4万人を数える。 ・ 交通渋滞は、経済損失につながり、地域経済の発展を妨げる。また、環境面でも悪影響、まちの魅力を高めることへの阻害要因となる。			
	2016(H28)年度市政運営方針		○	まちづくりと連携した総合的かつ戦略的な交通施策を推進するため、総合交通計画の平成29年度策定に向けた取り組みに着手する。藤阪駅周辺の歩道のバリアフリー化工事を進める。			
	2017(H29)年度市政運営方針		○	まちづくりと連携した総合的かつ戦略的な交通施策を推進するため、総合交通計画の平成29年度策定に向けた取り組みに着手する。 引き続き藤阪駅周辺の歩道のバリアフリー化工事を進める。あわせて、傾斜が大きい歩道の改良に向けた検討を行う。			
	2018(H30)年度市政運営方針						
事業概要 （目的・内容等）			交通事業者とまちづくりが連携した総合的かつ計画的な交通施策の推進に向け総合交通計画の策定を進める。また、国が提唱する公共交通機関相互の乗換円滑化及び公共交通の利用を一層促進するため、以下のとおり取り組む。 【拡充(平成28年度当初)】 京阪バス株式会社に対し、ICポイントサービス導入費用を支援し、公共交通の利用促進を図る。				
取り組み状況							
これまでの取り組み状況			①「枚方市総合交通計画」の策定に向けた取り組みでは、市内交通関係者による協議会の設置や市民ワークショップの参加者募集など、検討体制を構築。 ②枚方市交通バリアフリー基本構想に基づき、樟葉駅および周辺地区、枚方市駅・枚方公園駅および周辺地区、長尾駅・藤阪駅および周辺地区において、交通バリアフリー事業を実施。				
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	①総合交通計画策定に向けた基礎調査の実施、基本方針等の検討 ②長尾駅・藤阪駅周辺地区の交通バリアフリー事業の実施 【拡充(平成28年度当初)】 ・京阪バス株式会社に対するICポイントサービス導入支援に取り組み、公共交通の利用促進					
	実績（評価）	①まちづくりと連携した総合的かつ戦略的な交通施策を推進するため、総合交通計画の平成29年度策定に向けた取り組みに着手。 ②枚方市バリアフリー基本構想における、今後の事業の方向性をまとめた中間検証を実施。長尾・藤阪駅周辺地区の交通バリアフリー事業を実施。 【拡充(平成28年度当初)】 ・ICポイントサービス導入支援を実施。					
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	①総合交通計画の策定 ②枚方市バリアフリー基本構想の中間見直し 【拡充(平成28年度当初)】 ・ICポイントサービス導入後の検証及び、ICカードの利用促進。					
	実績（評価）	①総合交通計画協議会を2回開催し平成30年度計画策定とした。 ②枚方市バリアフリー基本構想等に基づき、樟葉駅及び周辺道路の現地調査を行った。また、牧野駅・御殿山駅・津田駅・宮之阪駅・星ヶ丘駅・村野駅周辺地区の道路特定事業計画を策定した。 【拡充(平成28年度当初)】 ICポイントサービス導入に伴い、公共交通利用促進のイベントや出前講座などで、ICカード利用についてPRを行った。					

2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	①計画に基づく事業の推進 ②構想に基づく事業の推進 【拡充(平成28年度当初)】 →推進
	実績(評価)	①総合交通計画素案について協議会で市民意見聴取を行い、それを反映した答申を基に、平成30年12月に枚方市総合交通計画を策定、平成31年2月に国土交通大臣の認定を取得した。また、計画に基づき、交通に関する出前講座を実施するなど事業を推進。 ②枚方市バリアフリー基本構想に基づき、御殿山駅周辺地区の交通バリアフリー事業を実施。 【拡充(平成28年度当初)】 ひらかたポイント制度と連携し、公共交通利用促進のイベントや出前講座などで、ICカード利用についてPRを行った。
2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	→推進
	実績(評価)	①枚方市総合交通計画に基づき、進捗管理、推進体制の構築及び交通に関する出前講座を実施するなど事業を推進。 ②枚方市バリアフリー基本構想に基づき、御殿山駅周辺地区及び宮之阪駅周辺地区で事業を推進。
備考		

課題・今後の対応	・策定した枚方市総合交通計画に基づいた施策の進捗状況や評価指標の達成状況を確認し、着実に施策の推進を図る。また、社会情勢の変化や施策の進捗状況に合わせて、必要に応じて柔軟に見直しを図る。 ・バリアフリーにおいては、策定した道路特定事業計画に基づく事業推進を図っていく。	
達成状況(実行計画)	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況(市長公約) ○:達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
京阪バス主要停留所乗降客数の市域人口に対する割合		○		15.2(H25)	15.4(H26)	15.6(H27)	15.8(H28)	15.8(H29)	15.3(H30)	-	%	
指標の説明				公共交通の利用者数が維持されており、順当に遂行できている。(バスの乗降客数については、枚方市統計書のデータを使用しており、H30のデータが最新となっている)							当初目標値	達成年度
京阪バスの主要停留所(枚方市駅、樟葉駅、長尾駅)における乗降客数(日あたり)／市域人口												
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	38,181	10,899	0	0	0	0	27,282
2017(H29)年度	18,356	16,739	0	0	0	0	1,617
2018(H30)年度	12,680	0	0	0	0	0	12,680
2019(R1)年度	472	0	0	0	0	0	472

整備事業の場合の総事業費	0千円	(建設経費	0千円	, 用地費	0千円)
--------------	-----	-------	-----	-------	------

（様式2） 実行計画管理シート

事業名		36	公共交通利用促進啓発事業	部・課	土木部 土木政策課
総合計画との関係	基本目標等		安全で、利便性の高いまち		
	施策目標等		5 快適で暮らしやすい環境を備えたまち		
	取り組みの方向		5-① 市民生活の利便性向上や環境負荷の低減などを図るため、効率的で利便性が高く、持続可能な公共交通環境の整備を図るとともに、公共交通機関の利用を促進します。		
	(関連施策目標等)				
	(関連施策目標等)				
	4つの重点的に進める施策との関係		4 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる		
との関係	基本目標		1 産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める		
	施策目標		4 快適で暮らしやすい環境を備えたまち		
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞		
	所信表明	○	・枚方市駅の乗降客は、1日9万人を数え、枚方市駅から発着するバスは49路線、1日約1,000本で乗降客は4万人を数える。 ・交通渋滞は、経済損失につながり、地域経済の発展を妨げる。また、環境面でも悪影響、まちの魅力を高めることへの阻害要因となる。		
	2016(H28)年度 市政運営方針				
	2017(H29)年度 市政運営方針				
	2018(H30)年度 市政運営方針				
事業概要 (目的・内容等)		市内の交通渋滞解消を図るため、市民や事業者等とともに公共交通の利用促進に向けた啓発を行う。			

取り組み状況

これまでの取り組み状況		【継続事業として定着しているもの】 ・市民室窓口で本市転入者へ「ひらかた交通タウンマップ」を配布。当課および都市計画課の窓口等でも配布。 ・「バス！のってスタンプラリー」を春と秋、年2回開催。 【H26、H27で取り組んだもの】 ・H26年度に「絵本&紙芝居 作品募集」を行い、「ひらかたエコフォーラム2015」にて表彰及び展示。H27年度には最優秀作品を製本し、バス！のってスタンプラリーや子育て関係施設に配布。			
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	・転入者に対する「ひらかた交通タウンマップ」の配布 ・「バス！のってスタンプラリー」の開催 ・学識経験者、事業者、NPO団体等と連携した公共交通利用促進に向けた検討			
	実績（評価）	・転入者に対し「ひらかた交通タウンマップ」の配布を行った。 ・公共交通利用促進イベント「バス！のってスタンプラリー」を春と秋に2回開催した。 ・市、事業者、NPO団体等が参画するプラットフォームを形成し、公共交通利用促進のためのツールとして「ひらかた交通すごろく」を作成した。			
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	→推進			
	実績（評価）	・転入者に対し「ひらかた交通タウンマップ」の配布を行った。 ・市制施行70周年記念事業として、公共交通利用促進イベント「バス！のってスタンプラリー」を春・夏・秋の計3回開催した。また、秋のスタンプラリー開催時には、ギャラリーバスの運行等、公共交通に親しむためのイベントを実施した。 ・モビリティ・マネジメントを学習するための「ひらかた交通すごろく」や出前講座を実施した。			
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	→推進			
	実績（評価）	・転入者に対し「ひらかた交通タウンマップ」の配布を行った。 ・公共交通利用促進イベント「バス！のってスタンプラリー」を春・秋の計2回開催した。また、新たな取り組みとして、バスに乗って枚方市内を巡るコースを提案する「バス！のってスタンプラリーおすすめコースコンテスト」を実施した。 ・「バス！のってスタンプラリー」の取り組みが、京都大学・交通政策研究ユニット10周年記念イベントでの「ユニット賞」を受賞した。 ・モビリティ・マネジメントを学習するための「ひらかた交通すごろく」を実施した。 ・広報ひらかた4月号及び総合交通計画の策定に合わせ、3月号に、公共交通の重要性について掲載し、市民へ広く公共交通の利用促進について啓発を行い、公共交通などに関する出前講座を行った。			

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	→推進
	実績（評価）	・転入者に対し「枚方交通タウンマップ」の配布を行うとともに、公共施設等での配架も実施した。 ・公共交通利用促進イベント「バス！のってスタンプラリー」を春・秋の計2回開催した。また、当該イベント時において、新たにバスの乗り方教室を実施した。 ・モビリティ・マネジメントを学習するための「ひらかた交通すごろく」を小学校内等で実施した。 ・公共交通の利用促進に関することも含め、交通の出前講座を実施した。
備考		

課題・今後の対応	高齢化の進展に伴う免許の自主返納などにより公共交通の重要性は高まっている一方で、人口減少などにより公共交通の利用者が減少し、公共交通の維持が困難になってきている。加えて、公共交通の運転手不足も深刻化している。 今後、公共交通利用促進へ向けた、従来の取り組みを推進していくことに加え、出前講座などを活用して、交通に関する市民意識の醸成を図っていく必要がある。		
達成状況（実行計画）	○：達成に向けて進行・継続中	達成状況（市長公約）	○：達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
公共交通利用促進啓発イベントの参加者数	○		565	1,397	2,217	4,037	4,530	5,231	4,000	人	
指標の説明			このイベントは、継続的に実施しているため、認知されており、天候などの影響を受けるものの、一定の参加がある。バスの使い方などに触れる機会となり、公共交通利用促進の一役をになっている。							当初目標値	達成年度
鉄道やバスなど公共交通の利用を促進する啓発イベントの参加者数(累計)											
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	1,130	0	0	0	0	0	1,130
2017(H29)年度	1,947	0	0	0	0	291	1,656
2018(H30)年度	1,130	0	0	0	0	0	1,130
2019(R1)年度	1,495	0	0	0	0	0	1,495

整備事業の場合の総事業費	0千円	(建設経費	0千円	, 用地費	0千円)
--------------	-----	-------	-----	-------	------

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		37	都市計画マスタープラン改定・推進及び立地適正化計画作成・推進事業		部・課	都市整備部 都市計画課
総合計画との関係	基本目標等		安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等		5 快適で暮らしやすい環境を備えたまち			
	取り組みの方向		5-② 利便性の高い都市環境をめざし、医療施設や福祉施設、商業施設などの都市機能の集約を図る拠点を適正に配置し、効率的・効果的な都市整備を進めます。			
	(関連施策目標等)					
	(関連施策目標等)					
	4つの重点的に進める施策との関係		4 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる			
と総合戦略の関係	基本目標		1 産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める			
	施策目標		4 快適で暮らしやすい環境を備えたまち			
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞			
	所信表明					
	2016(H28)年度市政運営方針	○	少子高齢化、人口減少の進展に対応し、持続可能な都市づくりを進めるため、将来の都市像を示す都市計画マスタープランを改定するとともに、住宅や都市機能の適正な立地の誘導を図るため、立地適正化計画を策定する。			
	2017(H29)年度市政運営方針	○	あらゆる世代の人が暮らしやすく、持続可能な都市構造を実現するため、都市計画マスタープランと立地適正化計画に基づき、都市計画をはじめとする諸制度の活用を図りながら、計画的なまちづくりに取り組む。			
	2018(H30)年度市政運営方針					
事業概要 (目的・内容等)			人口減少や土地利用状況の変化など社会情勢の変化に対応したまちづくりを進めるため、都市計画マスタープランを改定するとともに、都市機能の集約化等に向けた立地適正化計画を作成し、計画に基づく取り組みを推進する。			

取り組み状況

これまでの取り組み状況		・本事業を円滑に進めるため平成27年3月に庁内検討委員会を設置。 ・今後のまちづくりについて市民や事業者の意見を反映するためアンケート調査を実施、また関連計画との整合を図るとともに、枚方市都市計画マスタープランの改定においては現都市計画マスタープランの評価検証等、立地適正化計画の作成では国のガイドラインを踏まえた基礎調査等を実施したうえで、計画策定の検討を進めている。	
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	・都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の作成	
	実績（評価）	両計画の素案を作成した上、説明会の開催や素案の閲覧、意見書の受付などを行った後、枚方市都市計画審議会の議を経て両計画の改定及び作成を行った。	
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	・計画に基づき、土地利用の誘導のほか、道路・公園・河川・下水道など公共施設の整備	
	実績（評価）	立地適正計画を公表し周知を図るとともに、居住誘導区域外、都市機能誘導区域外の一定の開発建築行為に対する届出を受け付けた。	
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	→推進	
	実績（評価）	都市計画マスタープラン及び立地適正化計画との整合を図りながら、集約型都市構造を目指したまちづくりに寄与するガイドラインの作成に取り組んだ。また引き続き、居住誘導区域外、都市機能誘導区域外の一定の開発建築行為に対する届出の受け付けを行った。	

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	→推進
	実績（評価）	都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に示す集約型都市構造を実現していくため、「緩和制度を活用した都市拠点形成誘導ガイドライン」を策定、公表するとともに、立地適正化計画で定めた居住誘導区域外及び都市機能誘導区域外における一定の開発・建築行為に対する届出の受付を行った。
備考		

課題・今後の対応	都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を推進し、集約型都市構造を実現していくためには、郊外での無秩序な市街地の拡大を防止するとともに、鉄道駅周辺等の拠点性をより一層高めていく必要がある。このことから、今回、策定したガイドラインの周知を図り、都市計画提案制度を活用したまちの魅力向上や利便増進に資する民間主導の取り組みを促進する。		
達成状況（実行計画）	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況（市長公約）	◎:事業完了・目標達成

関連指標

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
鉄道駅利用者の市域人口に対する割合	○		69.3	70.3	71.3	70.2	71.4	71.5	-	%	
指標の説明			市内人口の減少が進むなか、鉄道駅の利用者については増加傾向にある。また、比較的高い割合で推移しており、鉄道駅周辺などに都市機能の集約化を図る両計画の考えに整合している。							当初目標値	達成年度
市内鉄道駅（京阪電鉄9駅、JR片町線3駅）の乗降客数（日あたり）／市域人口											
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

事業費（決算ベース）

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	14,873						14,873
2017(H29)年度	0						
2018(H30)年度	0						
2019(R1)年度	0	0	0	0	0	0	0

整備事業の場合の総事業費 0 千円 （建設経費 0 千円 ， 用地費 0 千円 ）

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		38	土地区画整理事業支援事業		部・課	都市整備部 住宅まちづくり課
総合計画との関係	基本目標等		安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等		5 快適で暮らしやすい環境を備えたまち			
	取り組みの方向		5-② 利便性の高い都市環境をめざし、医療施設や福祉施設、商業施設などの都市機能の集約を図る拠点を適正に配置し、効率的・効果的な都市整備を進めます。			
	(関連施策目標等)					
	(関連施策目標等)					
	4つの重点的に進める施策との関係		4 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる			
と総合戦略の関係	基本目標		1 産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める			
	施策目標		4 快適で暮らしやすい環境を備えたまち			
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞			
	所信表明					
	2016(H28)年度市政運営方針					
	2017(H29)年度市政運営方針					
	2018(H30)年度市政運営方針					
事業概要 (目的・内容等)			土地区画整理事業に関する専門的・技術的な事項に関する助言・指導を行い、事業の認可及び認可の為の調査、事業工程等に関する協議・調整を実施する。			

取り組み状況

これまでの取り組み状況		楠葉中之芝地区、茄子作南地区において、土地区画整理事業を推進するため、地元及び関係機関との協議・調整を行ってきた。楠葉中之芝地区については、平成24年12月に土地区画整理事業等の都市計画決定が告示され、平成25年3月に組合の設立が認可され工事を着手している。茄子作南地区は、平成28年3月に土地区画整理事業等の都市計画決定が告示され、平成28年8月に組合の設立が認可され工事を着手している。今後も引続き楠葉中之芝地区、茄子作南地区について技術的援助を行っていく。			
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	・楠葉中之芝地区 事業の円滑な推進を図るため技術的支援を行う。 ・茄子作南地区 事業認可、工事着手に向けた支援を行う。			
	実績（評価）	・楠葉中之芝地区 事業支援として、組合の役員会、総会に出席。また道路の安全対策について組合、市(土木部)と警察協議を行った。 ・茄子作南地区 事業認可、工事着手に向けた支援を行った。			
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	・楠葉中之芝地区 事業の円滑な推進を図るため土地区画整理事業の支援を行う。 ・茄子作南地区 事業の円滑な推進を図るため土地区画整理事業の支援を行う。			
	実績（評価）	・楠葉中之芝地区 事業支援として、組合の役員会、総会等に出席。また、道路の安全対策について組合、自治会、警察及び関係課と協議を行った。 ・茄子作南地区 事業支援として、組合の役員会、総会等に出席。また、造成工事や建築に係る手続きの調整を行った。 ・星田北地区 事業支援として、準備組合の役員会、総会等に出席。また、事業認可に向け、関係課等との調整を行った。			
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	・楠葉中之芝地区 組合解散 ・茄子作南地区 組合解散			
	実績（評価）	・楠葉中之芝地区 組合に対する技術的支援を行い、道路の安全対策について組合、自治会、警察及び関係課と協議を行った。平成30年12月に組合が解散した。 ・茄子作南地区 組合に対する技術的支援を行い、換地処分に係る手続きの調整を行った。 ・星田北地区 組合に対する技術的支援を行い、事業認可に向け、関係課等との調整を行い、事業認可された。			

2019(R1)年度 の取り組み	予定・目標	・茄子作南地区 組合解散 ・星田北地区 事業の円滑な推進を図るため土地区画整理事業の支援を行う。
	実績 (評価)	・茄子作南地区 組合に対する技術的支援を行い、解散に係る手続きの調整を行った ・星田北地区 組合に対する技術的支援を行い、事業計画変更認可、公共・公益施設に関する関係機関との調整等を行った。 ・村野西町地区 地元住民で構成する協議会に対して、技術的支援を行った。
備考		

課題・今後の対応	・星田北地区 土地区画整理事業による工事が行われるとともに、土地の使用収益が開始されると、進出予定の業者より施設建設が始まるため、必要となる手続きや関係機関との調整を行う。 ・村野西町地区 協議会及び事業協力者が行う土地区画整理事業の具体化に向けた検討、地域住民の形成等について、技術的支援を行う。		
達成状況（実行計画）	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況（市長公約）	

関連指標

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	21						21
2017(H29)年度	23						23
2018(H30)年度	17						17
2019(R1)年度	63						63

整備事業の場合の総事業費	0 千円	(建設経費	0 千円	，用地費	0 千円)
--------------	------	-------	------	------	--------

（様式2） 実行計画管理シート

事業名		39	空き家・空き地対策推進事業		部・課	都市整備部	住宅まちづくり課
総合計画との関係	基本目標等		安全で、利便性の高いまち				
	施策目標等		5 快適で暮らしやすい環境を備えたまち				
	取り組みの方向		5-③ 今後、増加することが見込まれる管理不良な空き家・空き地の発生抑制などを図るため、空き家・空き地の適正管理及び活用を促進します。				
	(関連施策目標等)						
	(関連施策目標等)						
との関係	4つの重点的に進める施策との関係		4 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる				
	基本目標		1 産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める				
市長公約との関係	施策目標		4 快適で暮らしやすい環境を備えたまち				
			＜所信表明・市政運営方針での表現＞				
	所信表明		○	増加が見込まれる空き家・空き地については、その活用を含めた対策を講じる。			
	2016(H28)年度市政運営方針		○	人口減少に伴い増加傾向にある空き家・空き地については、市が定める判断基準により、保安上危険となるおそれがある特定空家等への対応を4月から実施するとともに、本市独自の緊急安全措置の早期制度化に向けて準備を進める。一方で、そうした空き家・空き地について、さまざまな分野で有効活用できるよう対策計画の策定に取り組む。			
	2017(H29)年度市政運営方針		○	人口減少に伴い増加傾向にある空家・空地への対策については、保安上危険となるおそれがある空家等に対する本市独自の緊急安全措置等を4月から実施する。あわせて、総合的な相談窓口を設置する。さらに、市域内の実態調査を実施するとともに、空家等対策計画を策定し、空家等に関する啓発や、所有者と地域の公共的課題の解決に取り組む団体等とのマッチングなど、空家等の未然防止や有効活用に向けた取り組みを推進する。			
2018(H30)年度市政運営方針							
事業概要 (目的・内容等)			今後、増加することが見込まれる空き家・空き地の適正管理及び活用を促進するため、老朽化し危険な状態になっている特定空家等に対する措置を行うとともに、空き家の活用を含めた対策計画を策定し、対策を進める。 【変更(平成28 年度9 月補正)】 H29 年度に実施予定であった市内空き家等の実態調査について、H28 年度から29 年度にかけて実施する。また、空家等対策計画をH29 年度に策定する。				
取り組み状況							
これまでの取り組み状況			・平成27年5月に空家等対策の推進に関する特別措置法が施行されたことを受け、相談窓口を整理し、市民への周知を行った。同年11月には枚方市空家等対策協議会を設置し、本市の特定空家等への対応方針を諮問し、平成28年3月の答申を受けて、特定空家等の判断基準を策定した。 ・空家等対策の推進に関する特別措置法に定めるもののほか、空き地等に関し空家等と同様の施策を推進するため、枚方市空家等及び空き地等の対策に関する条例を制定し、平成29年4月1日から施行している。 ・空き家、空き地の適正管理の促進や活用を図るため、空家等対策計画の策定に向けて取り組んでいる。				
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	①法や条例に基づき生活環境に悪影響を与える特定空家等に対する勧告・命令・行政代執行等の措置 ②空き家・空き地の活用に向けた取り組みについての検討 【変更(平成28年度9月補正)】 ③市内空き家等の実態調査					
	実績(評価)	枚方市空家等及び空き地等の対策に関する条例を制定し、平成29年4月1日から施行。 市内空き家の実態調査のうち既存資料調査(平成28年12月～平成29年2月)を実施した。 空家等対策計画の策定に向けて、庁内委員会及び空家等対策協議会を開催した。					
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	①→推進 ②市内空き家の実態調査、空家等対策計画の策定 【変更(平成28年度9月補正)】 ③市内空き家等の実態調査、空家等対策計画の策定					
	実績(評価)	①台風による強風で危険な状態となった空家2軒について、条例に基づき緊急安全措置を実施した。 ②6月に市内の空き家の実態調査を完了した。市域の空き家の件数は3,721件で、空き家率は約3.9%であった。また、9月に空家等対策協議会からの答申を受け、パブリックコメントを実施し、12月に枚方市空家等対策計画を策定した。 ③空き家の活用に関する具体的な取り組みの検討に向けて、空き家所有者への意向調査を実施した。					
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	①→推進 ②空家等対策計画に基づく対策の推進及び進行管理					
	実績(評価)	①平成29年度に特定空家等に認定した物件1件に対して略式代執行による除却を実施。 ②空き家の市場流通など活用の仕組みづくりとして、平成30年8月「公益社団法人全日本不動産協会大阪東支部」及び「一般社団法人大阪府宅建協会京阪河内支部」と連携協定を締結した。また、管理不良な空き家・空き地の解消に向けて、適正管理の支援として平成31年3月「NPO法人空家・空地管理センター」と連携協定を締結。また、固定資産税の納税通知書に啓発チラシを同封した。					

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	①→推進
	実績（評価）	①指導対象住戸(1件)について、損傷範囲が拡大し構造上重大な損傷が見受けられたため「特定空き地等」に認定した。 ②旧耐震基準の空き家を活用して若者世帯、子育て世帯の転入・定住促進を図る補助制度を新たに創設した。 ③本市主催の市民向けセミナー及び個別相談会を実施した。
備考		

課題・今後の対応	・空き家・空き地の活用について、専門家団体など関係機関と連携して所有者や利用希望者へ、情報提供や相談等の支援を行うとともに、旧耐震基準の空き家を活用して若者世帯や子育て世帯の転入・定住促進を図る「若者世代空き家活用補助制度」を新たに創設し、運用を開始する。また、関係機関、関係民間団体への周知を図るなど、より効果的なPR方法等について検討する。 ・管理不良な空き家・空き地の解消や発生の未然防止に向けて、適正管理の支援およびセミナーや相談会等の開催を継続的に行う。 ・平成29年12月に空家等対策計画を策定したことから、その進行管理の手法を確立し、適切な進行管理を行う。 ・空き家・空き地に係る所管課が異なる業務を統合し組織体制の一元化を図り、総合相談窓口として市民からの問い合わせに適切に対応し、所有者等に対して適正管理を促す指導を行う。	
達成状況（実行計画）	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況（市長公約）○:達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位
特定空家等に指定した空家等の改善率	○		－	－	－	0	100	50	100	%
指標の説明			以前より苦情が寄せられていた指導対象住戸(1件)について、損傷範囲が拡大し構造上重大な損傷が見受けられたため「特定空き地等」の認定手続きを行った。							当初目標値
周囲への危険性が高いと市が判断して「特定空家等」と認めた物件のうち、危険が取り除かれ指定の解除に至った数／「特定空家等」と認めた物件の数										
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位
空き家マッチング件数			－	－	－	－	1	－	－	件
指標の説明			協定を締結した各種専門家団体と連携を図り、空き家・空き地の利活用、適正管理の促進に係る取り組みを引き続き行った。							当初目標値
空き家・空き地の所有者とまちづくりや地域の活性化、公共的課題の解決に取り組む団体・グループ等とのマッチング件数										
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位
指標の説明										当初目標値
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位
指標の説明										当初目標値

事業費(決算ベース)

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	2,899	1,250	0	0	0	0	1,649
2017(H29)年度	12,914	6,082	0	0	0	0	6,832
2018(H30)年度	4,609	682	0	0	0	0	3,927
2019(R1)年度	1,308	0	0	0	0	0	1,308

整備事業の場合の総事業費	0千円	(建設経費	0千円	, 用地費	0千円)
--------------	-----	-------	-----	-------	------